

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年4月30日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No. 8】

JR総連の革マルカンパは「さつき会館」で集約！

前号で紹介した元JR東労組中央執行委員の本間氏の陳述書では、JR総連における革マル派へのカンパの実態に関し、具体的な集約の方法について詳述している。これによれば、毎月、「目黒さつき会館」で革マル派へのカンパを集約していたというのである！

カンパは職場単位 支部単位 地本単位でそれぞれ集められ、地本単位の財政担当者 (財担) が集まる JR革マル派の 財担会議 が月 1 回、目黒さつき会館の地下で開かれていました。

私は、1994、95 年まで東京地本の所属でしたが、1996 年 7 月 6 日に横浜地本を新たに作り書記長に就任しました。横浜地本では当初、教宣部長だった坂本昇一氏が財担を務めていましたが、1997 年ごろから書記長の私が財担を引き継ぎ、少なくとも2002 年まで私自身が毎月、「財担会議」に出ていました。

各地本の財担は、私を含め A 会議を指導する「LC 会議」のメンバーでもあり、「LC 会議」は月に 1 回、泊まりで、各地区持ち回りで開かれ、南地区が担当するときは五反田の「ゆうぼうと」などを使っていました。私も横浜地本を作る前の1994、95 年ごろから2002 年までこの「LC 会議」に出席し、同会議には梁次邦夫氏 (注：浦和電車区事件刑事裁判被告) も出ていました。ちなみに東京全体の「LC 会議」の最高責任者は石川尚吾氏 (注：JR東労組前執行中央委員長) でした。

私が財担に出席し始めた 1997 年ごろ (から大宮支社ができる 2001 年ごろまで) は、東京地本はいくつかの支部ごとに分かれていて、東京近辺の支部の財担が安達氏、西の支部の財担が佐藤哲夫氏、そして北の支部の財担が梁次氏でした。さらに、財担会議には JR東労組だけでなく、JR東海労や JR貨物労組、JR西労の財担も出席していました。財担会議では、中央情勢の報告などが行われましたが、目的は“集金”でした。梁次氏は大雑把な性格でしたので、地区単位で集めたカンパをあらかじめ数えてくるのではなく、財担会議の場で数えていたことを記憶しています。そして私や梁次氏は、いわば集めたカンパを上納する側でしたが、各地本の財担が集めたカンパを受け取り党中央に渡すのは小田裕司氏と田岡耕司氏の役割でした。

東海労・西労・貨物労組でも革マル派カンパを実施！

本間氏によれば、JR総連各単組に革マル派の財政担当者が指定され、JR東労組だけでなく、JR東海労、西労、貨物労組の担当者も出席し、カンパ金を渡していたという！本間氏は3月3日の「週刊現代裁判」の証人尋問で、西岡氏代理人の「革マル派の影響というのはJR東労組だけに限定されたものではないというふうにお伺いしてよろしいでしょうか」との質問に対し、「そうです。JR東労組がJR総連の最大の組織ですから、JR総連にも当然影響はしておりますし、その他の単組についてもそうです」と答えた。JR総連のJR北海道労組、貨物労組、東海労、西労と、すべての構成組織に革マル派が浸透していることは確実だ。各組合の財政担当者は誰なのか、名前をぜひ聞いてみたいものだ。

また、カンパを党中央に渡していた小田裕司氏、「LC 会議」の最高責任者の石川尚吾氏、東京の北の支部の財政担当者である梁次邦夫氏は「マングローブ」ということになる！いずれも、当時現職のJR総連・東労組の幹部役員である。